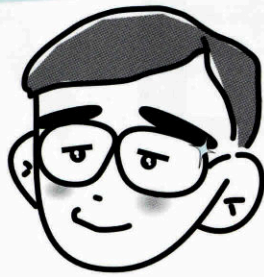


# ながと日記 ばーと24

長門市長 松林正俊



## IWCに見たもの

推進協議会のメンバーのひとりとして私も会議に参加しましたが、その様子を少しご報告したいと思います。

通常、会議といえはある種のルールと秩序の上に成り立つものと私たちは思っていますが、この国際会議は例外のようです。

5月24日、IWC下関会議が1ヶ月間の激しい論戦の末、幕を閉じました。加盟国49カ国、の鯨との関わり方は様々ですが、それぞれが自国の論理を主張し投票権を行使します。

反捕鯨国・スウェーデンの議長により、捕鯨国の主張は無視されながら会議は進みます。日本やノルウエーなどの捕鯨国が、科学的根拠のもとに必死で捕鯨再開論を展開しますが、ニュージーランドやオーストラリアなどの感情的自然保護論に押されていきます。そういった流れのなかで、順次表決がなされていくわけですが、とりわけ日本のミンク鯨捕獲枠拡大の提案は無視しながら、資源状態の良くないアラスカのホッキョク鯨の捕獲をイヌイットの先住民生存権を盾に主張する反捕鯨国のリ-

ダー・アメリカの勝手な物差しによる議事進行が目立ちます。会議冒頭、捕鯨国アイスランドが再加盟を認められず会場を後にするのを余儀なくされたように、捕鯨国にとっては極めて不利な状況がつけられます。

持続的捕鯨推進派と反捕鯨派それぞれのグループが反対を向いたまま議論する、そんな中で今年の会議でしたが、結果として、それぞれの勢力が拮抗してきたことを印象付けた会議でもありました。政治的に強い者が弱い者の文化や科学的根拠による正論を駆逐する、そんな国

際社会の縮図をIWCに垣間見たのは私だけではなかったはず。

概ね成功と評価された今回の会議でしたが、その最大の要因はホスト役・下関市民のホスピタリティ（もてなし）にあったと言われます。そして勿論、開催中に「鯨唄」や「鯨回向」など「鯨にやさしい文化」で外国の方々をもてなした、私たち長門市民のホスピタリティも評価されたことは嬉しい限りです。

## 三ヶ村地区上水道竣工式 公共下水道一部供用開始式

長門市水道事業第五期拡張計画に基づき、水道未普及地域の解消を図るため、平成9年度より三ヶ村地区（殿台、大河内、小河内）で進められていた水道施設整備が完成し、6月15日、殿台公会堂において関係者など約100人が出席して竣工式が開催されました。

またこの日は、同地区で平成9年度から整備を進められている公共下水道の一部供用開始式も併せて行われました。



## むし歯予防教室開催

歯の衛生週間にあわせ、むし歯に対する正しい知識と良い習慣を身につけるため、各保育園や幼稚園でむし歯予防教室が開催されました。

歯科衛生士による保護者を対象にした「親と子の歯科保健関係講話」では模型を使った説明があり、その後のブラッシング教室では、子どもたちが、歯垢の染め出し液を使用してブラッシングの方法など親子で歯のみがき方を練習しました。

